

鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 29 年 8 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①③）

大分県監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした（7月：なし）。

・地震や微動の発生状況（図 2-②④、図 3）

火山性地震の月回数は 3 回（7 月：1 回）と少ない状態でした。このうち震源が求まった火山性地震は 1 個で、鶴見岳北東側 2 km の海拔下 2 km 付近でした。

火山性微動は 2010 年 11 月の観測開始以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 噴気の状態（8月23日、大分県監視カメラによる）

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 9 月分）は平成 29 年 10 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』『基盤地図情報』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

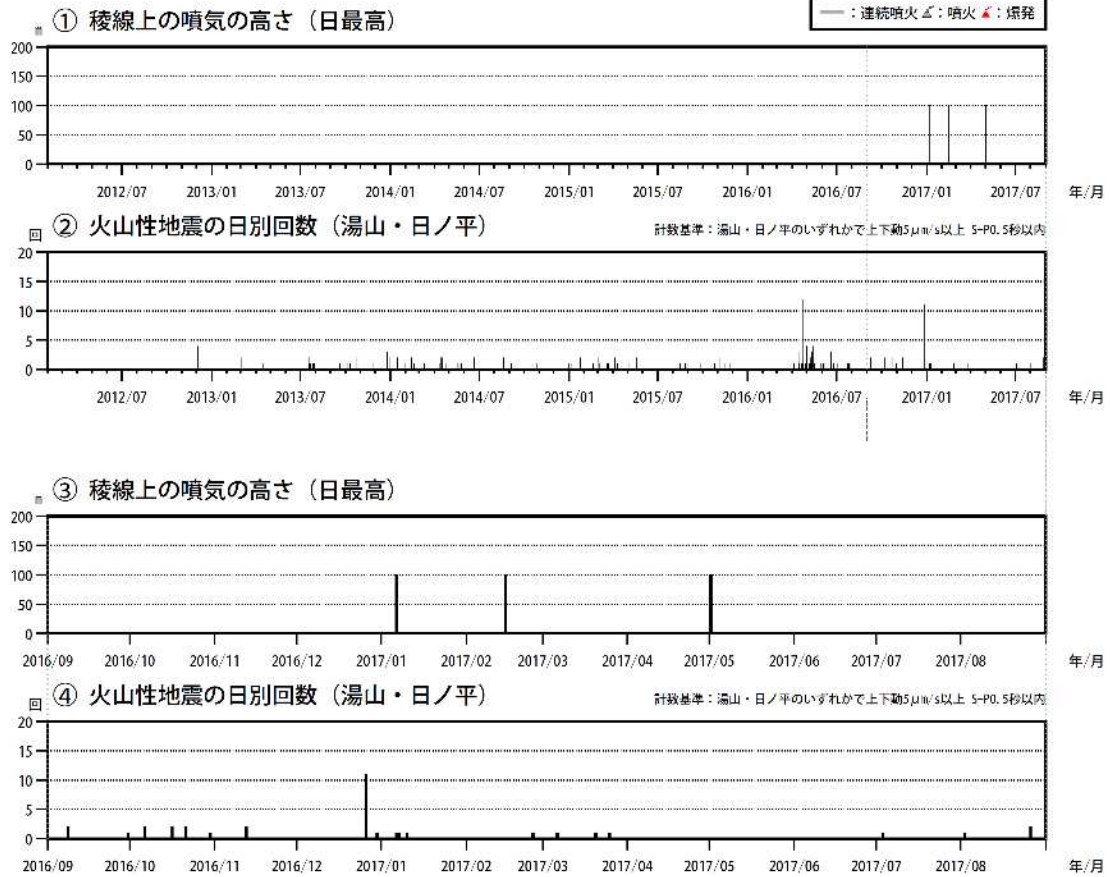


図2 鶴見岳・伽藍岳 火山活動経過図 (2012年1月～2017年8月)

< 8月の状況 >

- ・噴気は認められませんでした (7月：なし)。
- ・火山性地震の月回数は3回 (7月：1回) と少ない状態でした。
- ・火山性微動は2010年11月の観測開始以降、観測されていません。

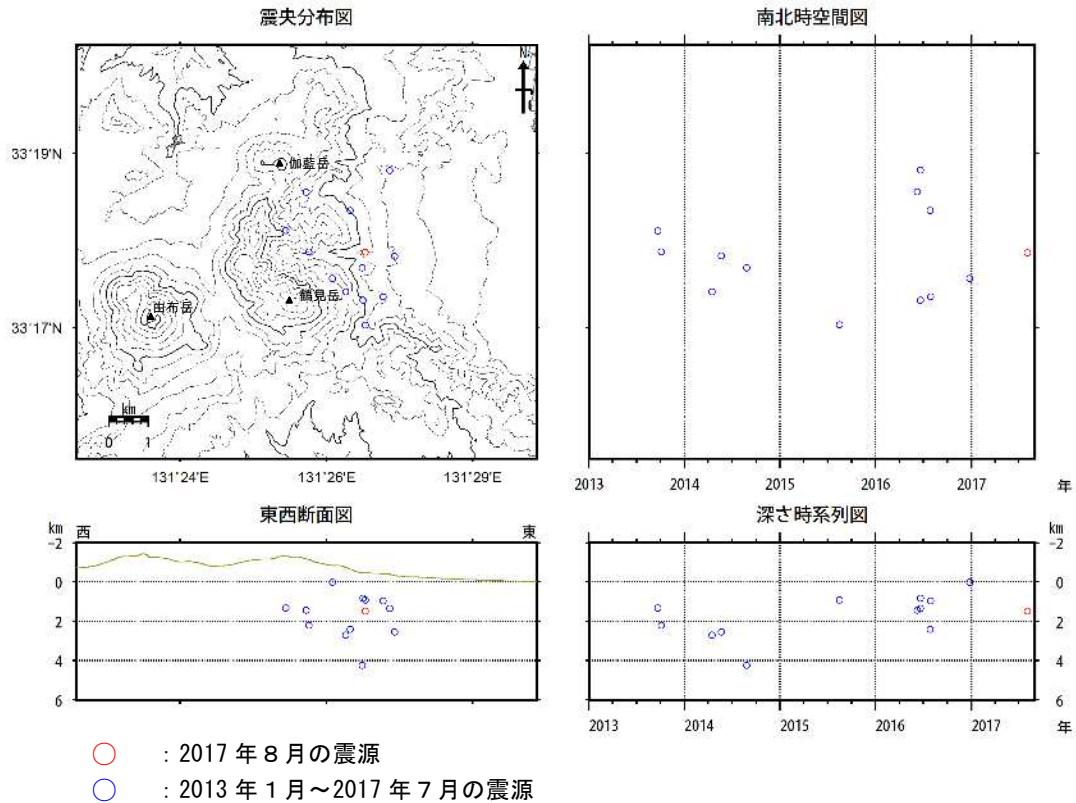


図3 鶴見岳・伽藍岳 震源分布図 (2013年1月～2017年8月)

< 8月の状況 >

震源は、鶴見岳北東側2kmの海拔下2km付近でした。

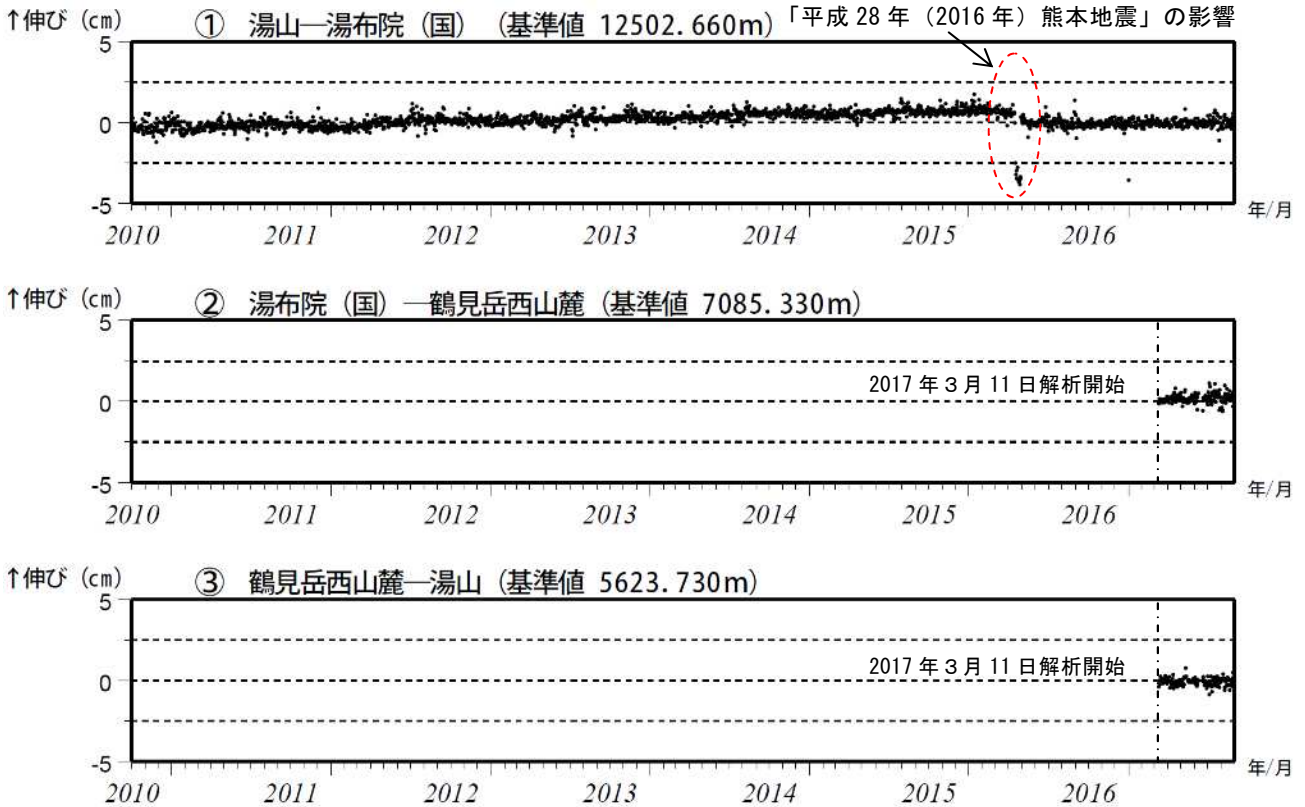


図 4 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2017年8月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図5の①～③に対応しています。

2016年4月16日以降の基線長は、平成28年（2016年）熊本地震の影響（図中の赤破線）による変動が大きかったため、基準値に合うように調整しています。

（国）：国土地理院

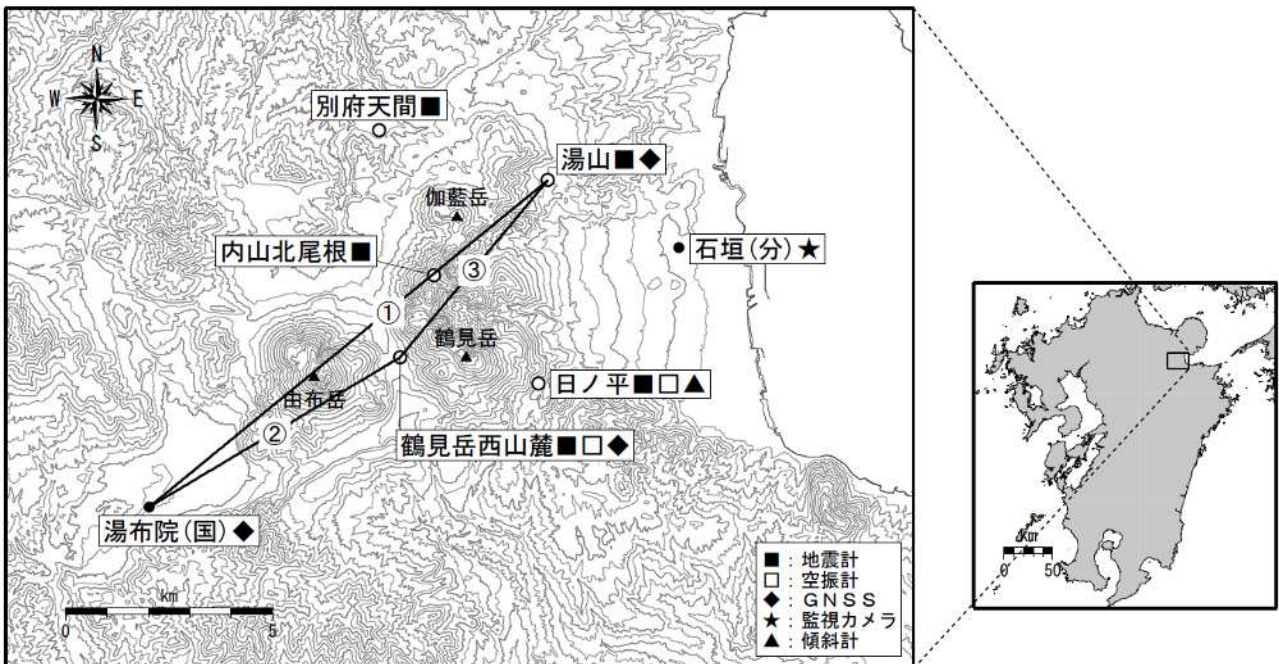


図 5 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図と GNSS 連続観測による基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

「石垣（分）★」は鶴見岳監視カメラ（大分県）を示しています。